

一般社団法人 ソサエタルデザイン研究所 ご挨拶

2023年3月1日
代表理事 寺野隆雄

このたび、一般社団法人 ソサエタルデザイン研究所 (Societal Design Institute) の代表理事を務めさせていただくことになり、一言ご挨拶をさせていただきます。

私自身、社会シミュレーションの技術と理論、そして適用分野の研究開発に携わって30年近くになります。その間、様々な方々、書籍から影響を受けてきました。その中で最も濃くに残っているのが以下の文言です。『いまはコンピュータのおかげで、政治問題はサイバースペースで実験してから実行に移すのよ。レーニンはかわいそう。早く生まれすぎたのよ…』これは、SF作家のアーサー・C・クラークが彼の名作「2001年宇宙の旅」の続編である「3001年終局への旅」で、登場人物に言わせたセリフです。

「サイバースペースでの実験」という概念は、最近、さまざまな文脈で語られるようになってきました。実際、情報通信技術の進歩のおかげで、この種の実験はもはや絵空事ではなくなっています。工学分野のデジタルエンジニアリング、また、コロナ感染の予測などは、最近の事例です。

ただ、少し待ってください。政治を含む我々の社会経済問題は単なる予測で判断していいのでしょうか？我々は、新しい社会を自らの手でデザインし実現していかなくてはなりません。そこには、単なる予測以上のものがが必要です。膨大な数の起こりうるシナリオを評価し、矛盾する状況の中で、意思決定を行わなければなりません。ここには、トップダウンのみの従来型の思考法では限界があります。本研究所の名称に「社会デザイン」という言葉を当て、SocialではなくSocietalという英語を用いたのにはこのような理由があります。Socialは人間の社会や人々の関係および相互作用に関連することを指し、社会的文脈で使われます。それに対し、Societalは、特定の社会全体に関連するものや特定の社会の特徴を示すものを指します。

「3001年」で語られたセリフは上から目線のように感じませんか？そこで、我々はさまざまな矛盾を含む複雑な社会経済問題を「自分ごと」として理解し、実践できる手助けをする組織を立ち上げることにしました。我々の目標は、この複雑かつ矛盾の多い現代社会に対して、市民としての政策意思決定者が、さまざまな政治経済問題を自分ごととして取り扱えるようなツールと方法論の提供、ならびに、それを実現し実践できる社会シミュレーション技術者・科学者 (Social Simulation Scientist) の育成にあります。

現在、我々が提供可能なのは、日本全国の家計情報を仮想的に扱える仮想個票(合成人口データ)、ならびに、コロナ感染予測をはじめとする大規模エージェントシミュレーションをカバーできるツールキットとそのための大規模最適化技術にすぎません。しかしながら、これらを核として、多様な意思決定当事者が利用できる社会コミュニケーションの方法論や、普及のための方策も順次整えていく予定にしております。

今ではごく普通に用いられる「サイバースペース」という用語を初めて用いたSF作家ウィリアム・ギブソンは、講演会でこんな発言をしたと伝えられております。『未来はすでにここにある。まだあまねく流通していないだけなのだ。』

私も彼の発言の妥当性を信じております。社会デザインの概念をあまねく流通させていきましょう。我々のこのようなアプローチに賛同いただける方々の本研究所への参画をお願いする所存でございます。

(以上)